**「百人一首の桜の歌を味わおう」**２年(　)組(　)番　名前(　　　　　　　　)

＜６首の共通点＞

|  |  |
| --- | --- |
| **9番**  **花の色は　移りにけりな　いたづらに わが身世（みよ）にふる　ながめせし間に**  桜の花の色は、はかなくあせてしまったなあ、春の長雨が降っている間に。同じように私の容姿も衰えてしまった、むなしくもの思いにふけっている間に。  小野小町（おののこまち。生没年未詳、820年～870年頃。） | ＜相違点＞歌の情景(季節、場所など)、歌の背景、歌人の思い |
| **33番**  **久かたの　光のどけき　春の日に　 しづ心なく　花の散るらむ**  日の光がのどかにさしている春の日に、どうして桜の花は落ち着いた心もなく、はらはらと散り急ぐのだろう。  紀友則（きのとものり。  ８４５？～905年頃） | ＜相違点＞歌の情景(季節、場所など)、歌の背景、歌人の思い |
| **61番**  **いにしへの　奈良の都の　八重（やへ）桜 　けふ九重（ここのへ）に　にほひぬるかな**  その昔、奈良の都で咲いた八重桜が、今日は九重の宮中で、いっそう美しく咲き誇っております。  伊勢大輔（いせのたいふ。  ９９０年～１０７０年頃） | ＜相違点＞歌の情景(季節、場所など)、歌の背景、歌人の思い |
| **66番**  **もろともに　あはれと思へ　山桜　花よりほかに　知る人もなし**  私がお前をなつかしく思うように、お前も私をなつかしく思っておくれ、山桜よ。この山奥ではお前以外に、私の心を分かってくれる友はいないのだから。  前大僧正行尊（さきのだいそうじょうぎょうそん。  1055年～1135年） | ＜相違点＞歌の情景(季節、場所など)、歌の背景、歌人の思い |
| **73番**  **高砂（たかさご）の　尾のへの桜　咲きにけり 外山（とやま）の霞（かすみ）　立たずもあらなむ**  遠く高い山の峰の桜も美しく咲いたことだ。人里近くにある山の霞よ、どうか立たずにいておくれ。あの美しい桜がかすんでしまわないように。  権中納言匡房（ごんちゅうなごんまさふさ。1041年～1111年。） | ＜相違点＞歌の情景(季節、場所など)、歌の背景、歌人の思い |
| **96番**  **花さそふ　あらしの庭の　雪ならで　ふりゆくものは　わが身なりけり**  桜の花を誘って散らす嵐の吹く庭の、まるで雪のように降ってゆくものは、実は老いて古（ふ）りゆくわが身なのだなあ。  入道前太政大臣（にゅうどうさきのだいじょうだいじん。  1171年～1244年） | ＜相違点＞歌の情景(季節、場所など)、歌の背景、歌人の思い |